

## ラムサール条約登録湿地関係市町村会議

# 漫 湖 宣 言

私たち、ラムサール条約登録湿地関係市町村は、日本列島の南西端に位置し、琉球という固有文化を育み、太平洋戦争で国内最大の地上戦が行なわれる等、様々な歴史的な変遷を経験した沖縄県の中で、ハーリー（爬竜船競漕）の発祥地とされる漫湖を有する那覇市に集い「市町村と国・道県・NGO等とのパートナーシップ」について学び、交流する機会を得た。

アマダ イミジャ リーユージケ

沖縄には、「雨垂れ水は醤油使い（雨水は醤油のように大切に使うなければならない）」ということわざがあるように私たちの先人達は、水を大切に使い自然と共に生きてきた。しかし、近年、私たちが快適で便利な生活を優先するあまりつくられた、大量生産、大量消費、大量廃棄の経済システムは、湿地を含む地球環境に大きな負荷を与え続け、地球が長年かけて築いてきた自然循環システムに大きな影響をもたらし、生物の多様性を損なうことになった。


そこで、私たち市町村会議は、湿地が先人から受け継がれた貴重な財産であることを認識し、それを将来世代に価値ある姿のまま引き継ぐために、以下の点に取り組むことを決意した。

- 1 条約湿地の歴史、現状、課題、保全活動の取組等について積極的に情報発信するとともに、その情報を共有し湿地の課題解決のために積極的に学習し交流を図ります。
- 2 条約湿地の現状把握のモニタリング調査や湿地の保全・再生計画を策定するにあたっては、国、道県、NGO等とのパートナーシップを構築するとともに、湿地の保全に関わる多様な人々の参画を求めます。
- 3 住民が条約湿地の現状及び課題を理解し行動するために、先人たちの湿地との関わり、生物の自然循環システム等について学び、湿地の保全及び賢明な利用（ワイズユース）を推進する機会を積極的に設けます。

ラムサール条約登録湿地関係市町村会議は、1989年（平成元年）条約湿地2箇所、登録予定湿地1箇所の関係8市町村から始まり、現在、条約湿地44箇所の関係64市町村まで拡大した。市町村会議が発足して25年目の節目にあたり、条約湿地の風土や文化を活かした保全と賢明な利用が積極的に展開されることを期待する。

平成25年11月1日

ラムサール条約登録湿地関係市町村会議会長 那覇市長



釧路市長	蝦名 大也	日光市長	斎藤 文夫
釧路町長	佐藤 広高	檜枝岐村長	星 光祥
標茶町長	池田 裕二	片品村長	千明 金造
鶴居村長	大石 正行	魚沼市長	大平 悦子
栗原市長	佐藤 勇	若狭町長	森下 裕
登米市長	布施 孝尚	美浜町長	山口 治太郎
浜頓別町長	菅原 信男	串本町長	田嶋 勝正
苫小牧市長	岩倉 博文	松江市長	松浦 正敬
浜中町長	松本 博	美祢市長	村田 弘司
厚岸町長	若狭 靖	竹田市長	首藤 勝次
習志野市長	宮本 泰介	九重町長	坂本 和昭
加賀市長	宮元 陸	薩摩川内市長	岩切 秀雄
大津市長	越 直美	屋久島町長	荒木 耕治
近江八幡市長	富士谷 英正	渡嘉敷村長	座間味 昌茂
東近江市長	小椋 正清	座間味村長	宮里 哲
高島市長	福井 正明	石垣市長	中山 義隆
長浜市長	藤井 勇治	鶴岡市長	榎本 政規
新潟市長	篠田 昭	阿賀野市長	田中 清善
豊見城市長	宜保 晴毅	久米島町長	平良 朝幸
美唄市長	高橋 幹夫	七飯町長	中宮 安一
名古屋市長	河村 たかし	古河市長	菅谷 憲一郎
飛島村長	久野 時男	栃木市長	鈴木 俊美
豊富町長	工藤 栄光	小山市長	大久保 寿夫
幌延町長	宮本 明	野木町長	真瀬 宏子
雨竜町長	藤本 悟	板倉町長	栗原 実
網走市長	水谷 洋一	加須市長	大橋 良一
小清水町長	林 直樹	立山町長	舟橋 貴之
根室市長	長谷川 俊輔	豊岡市長	中貝 宗治
別海町長	水沼 猛	廿日市市長	眞野 勝弘
標津町長	金澤 瑛	荒尾市長	前畑 淳治
三沢市長	種市 一正	宮古島市長	下地 敏彦
大崎市長	伊藤 康志		